

くありて其勸告に據れば、記者は其書翰の讀者が模範として主に效ふことを得る程に、其行動の細かなる事柄を知れるものと確信し居たりしこと明白なり。左に數例を擧ぐべし。

「爾曹主イエス、キリストを衣よ」(羅十三)。

「爾曹主イエスキリストを受けたれば、彼に在て歩むべし」(西三)。

「我キリストに效ふ如く、爾曹我に效ふべし」(哥前十)。此記事はコリントの信者が聖パウロの行動とキリストの行動を比較する便法を有せしことを證し、後者の行動に符合する限りは前者の行動に效ふべき事を命ずるものなり。

「キリストすら尙ほ已れを悦ばず事をせざりき」(羅三十五)。此は羅馬の教會が主を献身者として描寫せる其行動の顛末を知り居たりし事を證するものなり。

「願くは忍耐と安慰を予ふる神、爾曹にイエスキリストに效ひ、互ひに心を同うすることを手へ給はんことを」(羅十五)。此言に據れば羅馬の教會は主に關する一部の事實中、主に斯かる感化力あることを表はすものあるを知り居たりしに相違なし。

「凡そパウテスマを受けてキリストに入れる爾曹はキリストを衣たる者なり」(加七〇廿)。委しく言へば、ガラテヤの信者はキリストを模範とすることを得る程に其品性を熟知し、パウテスマを受けし時實際に斯く行はんことを誓ひたり。されば加拉太書第四章十九節にも「我小子よ、我爾曹の心にキリストの形其品性」成るまでは復び爾曹の爲に産の苦をなす」とあり。

「爾曹我等の主イエスキリストの恩を知る。彼は富る者なりしが、爾曹の爲に貧き者となれり。是れ爾曹が彼の貧きに由て富る者とならん爲なり」(哥後八)。此言に據れば、コリント人は主の履歷中、主が會て富める者なりしも、他人を靈の事に富ましめん爲めに、自ら貧しき生涯を送りし事あるを熟知し居たるに相違なし。

「我パウロ今キリストの柔和と寛容を以て爾曹に勸む」(哥後十)。此はコリント人がキリストの行動中、柔和と寛容を表はせるものあるを知り居たる一證にして、福音書中のキリストも斯くありし事は言ふ迄もなし。

「曹爾我等及び主に效へり」(撒前一)。此は此教會の會員が主を模範とすることを得る程に、其品性を知り居たる一證なり。

「之に因て我テモテを爾曹に遣はせり、彼は我がキリストに在て教ゆる所、即ち遍ねく教會ごとに教ふる模範を爾曹に記憶さすべし」(哥前七四)。茲に此使徒がテモテを送りて彼がキリストに在て教ふる模範を此教會に想起さしむると云ひしは何の意なるか。此は彼が己を宣傳へずして、主なるキリスト、イエスを宣傳へし事をコリント人に想出さしむるの意なり。されば彼等は主の行動と教訓の詳細を知り居たるに相違なし。

「爾曹キリストに在てたとへ師は一萬ありとも、父は多くあることなし、そは我れキリスト、イエスに在て福音を以て爾曹を生めばなり。是故に爾曹が我に教はんことを勸むるなり」(哥前四〇)。此言は前後の文意より推す時は、改心者にキリストを教へ其行動を示して之に效はしむるは、基督教々師の公職なりし事を證するなり。

エペソ書とコロサイ書には二個の著明なる記事あれども、此二書は聖パウロの著作に非ずと論ずる者あるが故に、余は避けて之を引用せざるべし。然れども聖ペテロの第一書翰中より之と同主意の記事一個を引用すべし。

「キリスト爾曹の爲に苦を受け、爾曹をして己の跡に隨はしめんとして、例を爾曹に遣し給へり。彼は罪を犯さず、又其口に詐偽なかりき。彼は罵られて罵らず、苦められて厲言を出さず、只義を以て裁く者に之を託せたり」(彼前二〇廿)。此言に據れば、其書翰の讀者が主の受苦の事實を能く知り居たるものと假定せしこと明白なり。

以上の外間接の引照尙は多くあるが故に、注意深き讀者は容易に之を發見するを得べし。而して此等の引照中には、初代の信者が吾人の福音書中に記載せるものと能く符合するイエス、キリストの行動と教訓の詳細を親しく知り居たる確證あり。此等の福音書中、紀元五十八年前に記せしもの一もあることなし。故に以上の書翰記者は之を使用せざりしこと明白なり。されば彼等は事件の材料を他の出所より取りしに相違なし。而して其事件は口頭にて傳へられしか、左なくば聖ルカが其福音書の序文に記せし如く、記録にて傳へられしに相違なし。何れにせよ紀元三十年より五十八年までの間に於て、種々なる信者の團體が其信仰の基礎として、福音書に記載せるものと大體に於て同様なる主の宣教の顛末を受け容

れし事實には影響せず。加之、此等の書翰中、其事柄を暗示せる様式は當時種々なる信者の團體例せば羅馬教會中に流布せし主の宣教の物語が近頃創作せしものに非ずして、既に數年の間、眞實の物語として受け容れられし事を證するなり。此は主の宣教終りて後十五年若くは二十年以内の事なるべしされば福音書の記されし眞實の年代は何年なりしにもせよ、紀元五十年より福音書著作の年までの間に於て、人なるイエスを神なるキリストに變造せし小説的分子が福音書中に挿入せられざりしこと明白なり。

然るに紀元五十年は主の宣教終りし後二十年以内に屬し、主と同時代の人々の證明を多く得らるゝ時期にして、主の宣教を目撃せし多くの人々當時尙ほ生存したりしに相違なし。パウロは其改心後、主が宣教の事實に就き自ら研究するの勞を取らざりしとの奇説を假に眞なりとするも、彼は迫害者の地位に在りし故、主が宣教の主要なる事實を取調べ、若し成し得べくば、之を辨駁するの必要ありしなり。吾人は彼がコリント人に贈りし第一の書翰に據り、主が一日五百の兄弟の共に在る時に現れし事と、其兄弟の多數が此書翰の記されし時に尙ほ生存せし事を知る。

或人には此記事は疑はしく見ゆれども、若し平均せる人間の命數表を參考するとせば、此數の半數以上は當時尙ほ生存すべきことを發見すべし。

吾人は今主と時代を同せる歴史の時期、即ち主が宣教の事實を小説に代らしむること能はざる時期に達したり。故に吾人の福音書は主の宣教を目撃せし人々が初代の信徒等に傳へし儘に、概して其行動と教訓の實話を記載せるものと認めざる可からず。然らば吾人は尙ほ何を求むべきやと云ふに、弟子等が一種の妄想により、主の行ひし奇蹟殊に其復活を事實と誤認するが如き事は有り得べき事なるや否やを考究するの一事あるのみ。

加之、此等の書翰に、據れば、教會は主が十字架に釘けられし後間もなく、イエスの實に死人の中より甦りし事を信じて復興せしこと確實にして、正式に記事を引て之を證するの必要な程なれば、吾人は左の三者中其一を撰ぶの外他に途あることなし。

- 一。イエス、キリストは實に死人の中より甦りし事。
- 二。左なくば彼甦りしとの信仰は弟子等の妄想に起因せし事。

三。左なくば其信仰は弟子等が巧みに計畫せし詐欺の結果なりし事。此中第三の假定は到底探るに足らざるものとして不信者が棄てたるものなれば之を考究するの必要無かるべし。

されど復活の信仰は初代に於ける弟子等の妄想に起因せりと云ふ第二の假定は現今の不信者が一般に採用せる説なれば余は次章に於て之を點檢すべし余は今福音書中に記載せる奇蹟中復活の事實のみ使徒書記者が基督教の真理を賭して證明せし奇蹟なることを讀者に想起さしむるのみに止むべし。即聖パウロは左の如く記述せり。

「キリスト若し甦らざりしならば彼等の宣る所は空しく爾曹の信仰も空からむ且つ我等神の爲に偽りの證をする者とならん我等神はキリストを甦らしむる事なればなり。若し死せし者甦ることなくば神キリストを甦らしむる事なかるべし（哥前十五。四十五。）。

されば吾人は最も深く此點に意を注がざる可らず何となればイエスは若し死より甦りしならば其使命の眞理なるを證する爲他に何をも要せざればなり之に

反して若し彼は實際死より甦らざりしならば他に如何なる證據あるも之に據りて彼のキリストなることを證するを得ず。加之彼の甦りし事は福音書に據らずして證し得らるゝとせば福音書を實録と認めざる不信者の攻撃は徒勞に屬し且つ普通の信者は此問題に關して起りし無數の爭論を念頭に置くの必要なきに至るべし。實に此問題に關する雙方の議論を記したる書籍は多くして若し之を集むるとせば頗る大なる圖書室を要すべし。

## 第十章

イエス、キリストの復活は客觀的事實なること。

「兄弟よ智慧に於ては小兒となる勿れ、惡に於ては小兒となれ、智慧に於ては大人となるべし」(哥前十四〇二十)。

主が十字架に釘けられし後間もなく信者の團體は吾人の福音書に記載せるものと大體に於て符合する主の行動と教訓の物語を有せし事と、其物語は主の宣教を目撃せし人々の報告せしものと同様なりし事は余既に之を證したり。されば福音書の内容中、其大部分は紀元後第一世紀間に出でし小説又は想像的創作より成立すと云ふが如き説は皆全く信を置かれざるもの也。又主が十字架に釘けられし後間もなく主の復活が基因となりて教會の再興せし事も余は之をパウロの書翰に據りて證したり。されば復活の信仰は詐欺に起因すと云ふとを敢てする者現今絶て無きが故に、其信仰は或る種類の妄想に起因するか、左なくば主の復活は事實なりしか、此二者中其一を取らざる可からず。此中前者は此信仰の起源を合理的に説明するものとして現今の不信者が一般に採用する説にして、通常之を

稱して「幻像説」と云ふ。されば復活の信仰は初代の弟子の妄想に起因すと云ふが如きことは果して有り得べき事なるや今之を吟味するは余の義務となれり。

此争ふ可からざる歴史の事實に就て社會は常に左の解釋を與へたり(此は若し事實なれば不信者が否認すると能はざるもの、又健全なる哲學に據れば、充分に説明し得らるべきものなり)即ちイエス、キリストは死より甦りし事、主は屢ば其弟子と會見し、已の靈的メシヤなることを基礎として教會を再興すべき命令を彼等に與へし事、主は其會見中弟子に約せし如く、彼等が其負はされし事業を成就する爲に、超自然力を彼等に與へし事、彼等は主の命令に従ひしこと、其結果として普き教會は創立せられ、其教會は過去十八世紀の間に驚くべき感化を人々の運命の上に及ぼせしこと是なり。

之に反して近世の不信者は余が本書第一編中に言及せし事實の合理的解釋として左の説を提出せり、即ちイエス、キリストは曾て死より甦りしとなし、されど其身體が墓の中にて腐敗しつゝありし間に、熱心なる弟子の中、或る者は活けるキリストを見たるものと想像し、其病的想像より創作せし幻像を現實の復活と誤認せ

り、而して彼等は直ちに之を事實として受容れ、主は死より甦りし事を他の弟子に報告せり、他の弟子も亦甦りしイエスの幻像を見たること、想ひ、之を客觀的事實と誤認せり。又彼等の狂熱高まりし時、彼等は主と會見したりしと想像せしのみならず、教會を再興すべき命令を受けたりと想ひたり。然るに主は公衆の見ざる所に自ら退くの意あるを暗示せしため、弟子はメシヤの基礎を變して、現世的及び可視的キリストを不可視的及び靈的キリストとなすべき命令を受けたりと想ひたり。されば其事業は企てられ、教會は再び建設せられ、新信仰は弘められ、之が結果として狂熱せる迷信家數人の根據なき幻想此等の弟子は自己の精神以外に存在せざる種々の幻像を外界の事實と誤認したるなりを基礎とし、其上に社會の最大なるものを立つるに至れり、而して其會社は人類史の上に驚くべき感化を及ぼせり。此説は若し真ならば、確かに此は復活其ものに劣らざる大奇蹟なり。

此説を是に似たるが如くするには、初代に於ける弟子の輕信を極めて甚だしき性質のものとし、遙かに普通の輕信に超越せるものと假定すべき必要あり。然れども之を證すべきものを求むれば、僅かに平凡なるもの一二を挙げ得るのみにて、

例せば、當時猶太人の輕信と迷信は非常なりしと云ひ、又イエスの弟子は奇蹟を信じ、惡鬼に憑かるゝ事を信じたりと云ふに過ぎず。されど彼等が此説に適する程度の輕信と迷信を有せし證據として之を擧ぐるには、之を證するに必要なる點を假定せざる可からず。

此説を立つるには事件の歴史的状態に於て不可能と認むべき程の困難ある二事を假定せざるを得ず。

一。イエスの弟子は、個々別々にも、又團體となりて會合せし時にも、死より甦りしイエスの幻像を見しと想ひて、之を事實と誤認せしこと。

二。彼等は又主と對話せしことを信じ、其對話中新基礎の上に再び教會を建設すべき命令を確かに受けたりと想像せしこと。惟ふに彼等は此等の命令を受けたりと信じたりしに相違なし、何となれば彼等は若しイエスの甦りし事を信せしとすれば、其命令を受けたる事を信するにあらざれば、必要なる改革をなすべしとは信せられざればなり。

然るに充分に確められし心理學上の原理によれば、最も熱心にして輕信に傾け

る人と雖も、彼が幻像を見て之を事實と誤認する結果を起すには預斷、定見、預期の三心的狀態中必らず其一を有せざる可からず。然れども歴史上の事實によれば、イエスの弟子が復活を預期し居らざりしとは確かなり、何となれば彼等は主の宣敎中のみならず、十字架に釘けられし前夜に至るまで猶太的模型のメシヤを望みたればなり(此望は羅馬政府の手より受けし主の耻づべき死により消失したりしに相違なし)。されば彼等は預期の狀態にあるよりも、寧ろ深き失望の狀態にありしなり、是れ其希望と預期の外れし必然の結果也。又彼等の預斷と定見も必要なる希望を生み出し得る程に有力ならざりしこと明白なり。實に此二者は反對の方向に動かしたるに相違なし、何となれば此二者は何れも過去の思想に對して保守の傾向を有したればなり。されば此二者は幻像を生み出し得る程に有力なりしとすれば、其幻像は猶太的模型のメシヤと神の國の幻像にして、彼等が實際に宣傳へしキリストと神の國の幻像にはあらずりしに相違なし。併し乍ら假に一步を譲り、彼等は甦りしイエスの幻像を見たりとするも、主は最後に退きたるを以て、之が爲に彼等の有ゆる希望と預期は打碎かれしに相違なし、何となれば猶太思想の

眞髓は現世の勝利者のメシヤにして、敵と味方に拘らず其面前より退く者にはあらざればなり。されば此等の心的狀態中其一を以て復活に就ける信仰の起源を合理的に説明するものとするは不可能なり。

されば此等の説を常識によりて吟味せんが爲、假りに此等の困難をなきものとし、又主が十字架に釘けられし後直ちに弟子の熱心は大に高まり居たりとし、而して其中の一人は甦りし主を見たりと想像して、主が死より甦りし事を他の弟子に言ひ弘めしとせよ。不信者は通例此報告をなせし者をマグダラのマリヤなりしと云ふ(此人とするも他人とするも余の論に影響せず)而して彼等の説によれば、彼女は熱心の餘りイエスを園丁と誤認せりと云ふ。借問す、熱心に主に愛着せし人なるに、彼女は主と語らずして直ちに其復活を他の弟子に報告せんとして去り往きしや。若し語りしとせば、彼女の幻想は直ちに消失したりしに相違なし。併し乍ら彼女が見しと想ひし者は園丁に非ずして、錯亂せし彼女の想像より作り出せし幻像なりしと假定せよ。然らば彼女は其愛する主と語らんとはせざりしや。若し問を發せしとせば、彼女は幻像の中に答を得て、他の弟子に傳ふべき使命を托

せられしと想像したりしか。若し使命を托せられしとせば、其中には弟子と會合すべき約束ありしに相違なし。然らば其約束は履行せられしか。或は又主は彼女に再會を約せざりし乎。若し約せしも、其約は履行せられざりしならば、之が爲に彼女の幻想は消滅せしに相違なし。されど若し彼女は其後も主に面會せしと想像せしならば、彼女は相續きて主の幻像を見、又幻想中に主と對話し、之を事實と誤認せしものとせざる可からず。斯かる事は理論に於ては思料し得らるれども、事實に由て證する時は全く信す可からざることとなるなり。

然れども一步を譲り、弟子の一人に斯かる狂人ありしと假定せよ。然らば吾人は他の弟子が失望せる儘に復活の報告を輕々しく受け容れしものと信すべき理由ある乎。彼等の一人が其の熱心を他の弟子に傳へしと云ふより容易なるはなし、されど云ふとは容易なるも、之を爲すは極めて難し。借問す、歴史中之に類する事を記載せるものありや。何人にせよ、無學の人に向ひ幽霊の現はれしことを説勸むるには大なる困難なし、されど如何程奇態なる事を好んで聞かんとする人にもせよ、其人に向ひ近頃公衆の前にて刑せられし人が實際其身體を以て再び現

はれしことを説き勸むるとせば、此は全く別性質のものなり。斯かる種類の報告は唯報告者の語のみに依頼して受容れらるべきものと信じ得らるゝや。詳言せば、弟子は唯狂信者として知られし者の言のみに依頼して、近頃犯罪人として十字架に釘けられし者の復活せし物語を當時の政府に反對して傳へ、又其生命を賭して彼をキリストとし、神の國の王として宣傳せしものと信じ得らるゝや。又其墓は近き所にありし故、其弟子の一人は之を檢査せん事に思ひ及ばざりし乎。或は又彼を十字架に釘けたる一人は復活の物語を聞きし時、其屍を引出して其幻想を見事に打碎かんと思ふ人あらざりし乎。加之弟子の中には主は何故に我等には現はれざるやと問ひし者あらざりし乎。此は當然に有るべき事なり。而して其現はれざる理由として、主は敵の來らざる所に退隱すべき必要ありと答ふるとせば、彼のメシヤたる主張は速かに消失せ、最も輕信、狂熱の人と雖も之を信せざることとなるべし。

然るに論者の假定する所によれば、弟子の中幾人も其物語に由て鼓吹せられ、彼等も亦甦りしイエスの幻像を見しと想ひて、之を事實と誤認したりしと云ふ。此



は吾人を導きて困難の中心に達せしむるものなり。

聖パウロの書翰中一點の疑をも許さずして證明する所に據れば、一人の弟子のみならず多くの弟子は獨り居りし時にも會合せし時にもイエスの幻像若し幻像なりしとすればを見しものとせざる可からず。例せば此使徒の告ぐる所によれば使徒等は少くとも二回一緒に集り居りし時に主と會見せし事を信じ、其中の二人即ちペテロとヤコブは獨り居りし時に主と會見せし事を信じたり。又初代の信者は五百人以上共に在りし時に主が現はれし事を信じたり、其中半数以上は此使徒がコリント前書を記せし時、即ち主が十字架に釘けられてより二十七年後に尙ほ生存せし事を確認せり。又此使徒は主が己にも現はれし事を確信せり。不信者は福音書を歴史の書と認めざるが故に、余は其中に記載せる他の顯現を参照せず。

聖パウロの陳述に疑を入れんが爲に有ゆる力は盡され、此使徒は自ら事實を調査するの勞を取らずして、容易に風説を受け容れたりとの説は提出されき。此點に就ては既に考究する所ありたれば、余は今單に讀者が常識に訴へ、自ら左の事を

考究せんことを希望す。即ち彼は教會に對して猛烈なる迫害者なりしに、基督教の根據と認められし事實の性質を確めもせずして、俄かに最も活動せる宣教師となり、之が爲に己れの有せる總ての利益を抛ち、且つ彼がコリント後書第十一章に記せる總ての患難に遭ひしものと思はるゝや否や。此は實に信じ難きとなり。

然るに聖パウロの證明中にはペテロとヤコブの證明をも包含す。彼の告ぐる所に據れば、彼はエルサレムに上りし時ペテロの家に十五日間宿泊し、又其宿泊中一回若くは數回ヤコブと會見せり。借問す。彼は二週間以上ペテロの家に滞在せる中、ペテロに請ふて其見聞せし復活の事實を物語らしめざりし乎。又彼とヤコブの會見中、此件は話題とならざりし乎。されば聖パウロがコリント前書第十章中主の顯現に就き枚擧せる所に據れば、左の事實を認めざる可らず、即ち此等の使徒は主が死より甦りし後、各獨り居りし時に主と會見したるものと信せしこと、又彼等は他の使徒等と共に居りし時二回は主と會見せしと、隨つて他の使徒等も此等の顯現の事實なるを信じたりしに相違なきと、又三回目には主は先約を履み弟子の全體に現はれしことは是なり。最後に聖パウロは主が己れに現れし事を

信じたり、而して彼は此顯現の事實なる事を信せし爲に其生涯の主義を全く一變せり、是れ疑ふ可からざる事實なり。

されば此は歴史的事實の適當なる説明として不信者が假定する如く、初代に於けるイエスの弟子が精神錯亂の状態に在りし結果として考ふるを得ず。其然らざりし所以は、個人が獨り居りし時にイエスと會見せし事を信せしのみならず、人々の團體が共に集り居りし時に、其殺されたる數日後に、三回ほど時を異にして魅りし主を見しものと信せし事に由て知らるゝ也。而して此三回中二回までは其身體は若し友の手にて取除かざりしならば弟子の側近くありしに相違なし、若し友の手にて之を取除きたりとすれば、彼等は此事を知りしに相違なし、若し又敵の手にて之を取除きたりとすれば、此事は著明なる事件として世に知られしに相違なし。

併し乍ら此論の全く信するに足らざるを表はさんが爲に、吾人をして此等の信じ難き事を盡く信すべきものと假定せしめよ。茲にも吾人は既に力を極めて論じたるが如き困難あるを見る。此等の顯現中、弟子等は當時其取圍まれし事情

の下にありて、何事をも主に問はざりしものと信じ得らるゝや。必らずや最も深く利害に關する興味ある點が彼等の心に浮びしに相違なし。將來は如何になるべき乎。主は公衆の見ざる所に自ら退隱するの意なる乎。左なくば敵と對立するの意なる乎。主のメシヤたる主張は如何になるべきか。主の弟子は如何なる方針を取るべき乎。此等の問題又は之に類する種々の問題は避く可からざりしに相違なし。此等の問題に對して弟子等は答辨を得たりと信せし乎。若し斯く信せしとすれば、其答辨は其顯現と同じく幻にして、共同的迷想の結果なりしに相違なし。若し又彼等は何等の答辨をも得ざりしとすれば、其迷想は直ちに消失せたりしに相違なし。

此問題を考究するに當り、主が十字架に釘けられて間もなき後より現今に至るまで教會が可見的會社として存在せし事實は之を重要視せざるを得ず。然るに前説の提出者は之を説明することの極めて大切なるを忘れ、單に幽靈物語の起源を研究するが如くに此問題を取扱ふを見る。此大會社が格別なる時期と格別なる場所にて存在し始めしことは歴史的事實なり。最初の弟子等が以前に抱きし

ものと全く性質を異にせるメシヤの概念に基きて此會社を再興せし事も亦均しく確か也。主の十字架によりメシヤに就ける舊き概念は全く効力を失ひたれば、新しき概念は速かに採用せられざりしとすれば、此小會社は遂に教祖の墳墓中に滅絶したりしに相違なし。されば主の十字架に釘けられし時より教會再興の企圖が始まりし時までの間に、弟子等は猶太國をして萬國民を服従せしむべき可見的及び勝利者のメシヤの舊思想を抛棄して、不可見的及び心靈的メシヤの新思想を採用し且つ之より生ずる有ゆる結果を受け容れたりしに相違なし。然れども彼等は此新基礎の上に再び教會を建設すべき命令を確かに主より受けたりと固く信じたるにあらざれば、斯かる方針を取ることを敢てすべしとは信せられず、殊に彼等は其遭遇するに相違なき有ゆる妨害を前途に見て斯く爲すべしとは信せられず。然るに吾人の考究しつゝある説は當を得たる事實の説明なりとすれば、主の顯現と會見が盡く幻なりしのみならず、其對話も訓令も亦幻ならざる可らず。是れ果して何を意味するか。過去十八世紀以上の間、人類の上に驚くべき善感化を及ぼせし大會社なる教會が建設せられし其基礎は錯亂せる想像を有せし人々

の狂夢より出でたる創作に外ならざる乎。而して吾人は奇蹟の實在を受容るゝよりも寧ろ道理と哲學の名を以て此説を嘉納せんことを勸誘せらるゝなり。

惟ふに現今證明せられし精靈説上の現象は多數の學識ある人々も之を事實として信するが故に、此は多數の熱心なる人々が内部の印象を外部の事實と誤認する事の有り得べきことを表はすものとして、以上の説が辨護せらるゝならむ。精靈説の問題を本書の如き範圍狭き書中にて論ずるは不可能なり。故に余は單に左の事を言ふのみに止むべし、即ち證明せられし精靈説上の奇蹟は主觀的印象を外部の事實と誤認せし結果なりと假定すれば、此等の現象又は之に類する現象は前述せしが如く、三個の心的状態中少なくとも其一を有せざる可らず、然れども初代に於けるイエスの弟子の場合に於て此三状態の缺けたる事は當時の歴史的状態によりて之を證し得らるゝなり。加之、復活の信仰は一統教會を起し、且つ此一統教會が歴史の上に及ぼせし有ゆる結果を起したりしが、精靈説上の奇蹟の信仰は何をも起さざりき。前者の信仰は世界の歴史を一變したりしが、後者の信仰は何の結果をも生み出さざりき。若し精靈説上の現象は事實ならば、犯罪を摘發する

上に於て大に司法事務を助くるに相違なし、然れども此點に於て精靈説上の現象は何の益をも害をも及ぼせし事なし。人の欲念中利を得んとの欲念ほど有力なるはなし、而して若し精靈説上實驗の事實は迷想到非すとすれば、人は幾多の秘密を未發の中に探知するの能力を有し得べき也。然るにイエス、キリストの復活は有ゆる歴史の秘密を開く鍵なれども、精靈説上の顯現は株式取引所の相場すら之を動かすこと能はざりき。舊豫言者の言は精靈説上の奇蹟にも之に類する奇蹟にも正當に應用するを得べし、曰く「爾曹後成らんとする事を示せ、我等爾曹が神なることを知ん、爾曹或は幸し或は禍せよ、我等共に見て驚かん、視よ爾曹は無きものゝ如し、爾曹の業はむなし」。斯かる奇蹟又は之に類する奇蹟は、所謂精靈説上の顯現に於ける結果の如く、唯笑ふべき瑣談に非ずして、驚くべき結果を生み出だすとすれば、吾人は其中に注意して考究すべき價值あるものあるを認むべし。

復活の事實に代ゆべき尙ほ一つの説は提出せられたれば、余は此説に就き茲に一言せざる可らず。其説によればイエスは十字架に釘けられたれども之が結果として死せざりき、彼は氣絶せる儘に十字架より取下されき、彼は墓の中にて其氣

絶の状態より覺醒して、友の家に遁れ、此處にて漸々其元氣を回復せり、此後彼は敵の近づき得ざる所に退隱したりしが、弟子等は輕信の餘り之を見て死より甦りしものと誤認せり。此説には幻像説に共通なる多くの困難伴ふのみならず、此説に限れる困難も多く伴へり。

吾人はジョシファスの證明に據り、數時間十字架上に懸けられたる者が注意して治療を加ふれば、生命を回復し得る事を許容す、然れどもジョシファスの記事に據れば、運強くして回復し得る者は三人に一人の割合なり。さればイエスの身體は十字架より取下されし時、何人の手に托せられしや、是れ肝心なる問題なり。若し回復し得たりとせば、友の手に渡されしなるべし、併し乍ら友の手に渡されし事を記せるものは唯福音記者の記事あるのみ、而して同記事を若し此事を信せしめ得る權ありとすれば、他の事を信せしめ得るものとせざる可らず。然るに十字架の刑を斷行せし敵方の猶太人と實際此刑を執行せし兵卒は屢ば此刑を執行して、此種類の死には如何なる徵候あるかを熟知したれば、生命の尙ほ残れる儘に主の身體を渡すことを許せしものとは思はれず。之に反して若し主の身體は續いて

敵の手に保管せられしとせば、回復は到底不可能なりしに相違なし。

此説が全く近世に創作せられし事は吾人の注意を償す。セルサスとポルプリの如き人を始め、十字架の刑が一般に行はれし時代の基督教敵對者中、一人もイエスが實際に死せしや否やに就き疑ある事を言表はせし者なし。猶太人中の敵對者と使徒パウロに斯かる疑念の起らざりし事も亦明白也、此使徒は迫害者なりし故、此問題を精査したりしに相違なし。事實を明白に云へば、若し復活の信仰は主が徐々と漸次に回復して公衆の見ざる所又敵の近かざる所に退隱せし結果なりしならば、弟子等が教會を建設せし事は復活を基礎とせしと云ふよりも寧ろイエスと其弟子中の數人より出でたる故意の詐欺を基礎とせしと云はざるを得ず、何となればイエス自ら漸次的回復を復活と誤認するが如き事は有り得べき事と思はれず、又介抱して回復せしめしイエスを安全の場所に連れ往きし人々も彼が其後如何になりしかを詳に知りたるに相違なければ也。借問す、幾許かの人々が如何に輕信なりしにもせよ、徐々と其傷を癒されて退隱中に死せし人を教會の必要に應じて來りしメシヤと誤認するが如き事は有り得べき事なる乎。或は又若し

其秘密は唯四五人の外他に漏れざりしとせば、他の弟子等は主を見る事を許されざりしに、如何にして其復活を信する事となりしや。教會が新基礎の上に建設せられし事は明白なる事實なり、而して斯く前面の變せし事は何人の考案に成りし乎。使徒等は斯く爲すべき命令を主より受けたりと信せずして、斯く爲す事を敢てせしものなる乎。左なくばイエスの考案なりし乎、若し然らば主は敵の近づかざる所に退隱せしにも拘らず、己れの復活せし事を弟子等に宣傳せしめ、且つ之を基礎として教會を建設せしめ、自ら遠く離れて安全の地にありながら之を爲さんが爲め(己が辛じて救はれし)危険を冒さんことを勧めたりとせざる可らず。余は斯かる事件を尙ほ論じ續くるの必要なるべし、何となれば讀者は常識により此説も幻像説も共に全く信す可らざるものと断定すべければなり。

されば以上の論より左の結論は成立す、即ちイエス、キリストは死より甦りたりとの假定は有ゆる歴史上の事實に就ける満足なる説明なるのみならず、他の説明を許さざる唯一の説明なり。故に彼は死より甦りたりとは教會が常に其起源を説明せるものとして示せる事實にして眞の事實なり。主の復活は斯の如く事實

として成立するが故に、奇蹟的記事を包含するの故を以て福音書に反對する諸説は消滅す。故に福音は純然たる歴史の地位を有す、其中共觀福音はイエス、キリストの行動と教訓に就ける三個の報告にして、主の宣教を目撃せし人々によりて報告せられ、遺傳の記憶が尙ほ新たなる時期に書に筆せしものなり、又第四福音は同じ神的人生の記事にして、他の出所より出でたるもの也。而して證明上の見地より見れば、是だけにて充分也。此は主の神的使命を證明すると共に、天啓として基督教の眞理を證明す。是より以上を論定する事は嚴重に辨證學と稱する神學の部分に屬せず、而して不必要なる論點を辯護して累を己れに及ぼすは吾人の證明を強むるよりも寧ろ之を弱むる傾向あり。使徒書の記者は一つの奇蹟(只一つの奇蹟のみ)即ちイエス、キリストの復活を賭して基督教の眞理を證明せり。此點に就ては過去の歴史に於ける他の事件に就てよりも一層強き證據あり。されば當今の時代に於て起さるゝ許多の爭論中何れかを賭して基督教の眞理を證明し、其眞偽は此等の爭論を解決する吾人の能力如何に因るが如く認むる事は全く不必要なるのみならず、多くの場合に於て非常なる危險あり。猶太人曰く「爾此等の事

(即ち神殿を清むる事)を爲すからには、我等に何の休徵を見するや。イエス答へて曰く、爾曹此殿を毀て、我三日にて之を建ん、……イエスの斯く云へるは其身の殿を指せるなり。

## 第十一章

キリストは律法と預言者の成就者なること。

「我律法或は預言者を廢る爲に來れりと思ふ忽れ、我來りしは之を廢る爲に非ず、成就せん爲なり、されば我誠に爾曹に告ぐ、天地の廢るまでは律法の一劃一畫も廢らずして皆成就するに至るべし」(太五〇十七、十八)

本章中余が讀者に示さんと欲する點は左の如し、即ち舊約聖書の律法に屬する有ゆる儀式と禮式及び種々の預言はイエス、キリストの人格と事業の中に實現せられし事と、舊約聖書の道德的教訓は多くの點に於て又種々の原因により不完全なりしが、其中に含める眞意は主の教訓に由て實現せられし事是なり。福音書には主が此事を自ら主張せしことを記し、使徒書の記者も幾回となく主の此主張を記載せり。然らば此主張の中に預想せらるゝは何ぞや、又此事に就ける證明上の價値は如何。此主張により預想せらるゝ事は左の如し、即ち

一。律法即ち舊約時代の法律と禮式に屬する部分は、ヘブル人に贈れる書翰の語にて言へば、來らんとする美事の影にして、其事の全き像に非ざる事(Ἰκρίν τῆς ἐκείνης)

ἡ νόμος τῶν Ἰουδαίων ἀγαθῶν, οὐκ ἔστῃ τῆς ἐκείνης τῆς πραγματείας) 詳言せば、祭物と禮式の規則は來らんとする美事の描寫にして、像が其像に由て表出さるゝ物と精密に均しきが如きに非ず、只影が其影に由て表はさるゝ物に似たる位に過ぎず、而してイエス、キリストは其主張によれば、其影の實現せるものなり。

二。將來に現はるべき神の國と其王メシヤたるべき者ごとに就ける概念は舊約聖書中の預言に基づくこと、而してイエス、キリストは此國の王にして、此等のメシヤ的描寫の實現せるものなる事を主張せり。

三。舊約聖書の道德的訓告は幾回となく其時代の低き道德的狀態に適應せるものにて、不完全の點に種々の程度を有せし事、而してイエス、キリストは、其主張に據れば、其人格と教訓によりて、其道德的教訓を成就せり、詳言せば、其不完全なる點あるを免かれしめ、又道德の完全なる理想を實現せり。

然らば舊約に於ける律法上の儀式、預言的聖書、道德上の教訓はイエス、キリストの人格と事業の中に實現せる事を假定すれば、斯かる實現の證明的價値は如何。之に對する余の答は左の如し。

舊約聖書は種々の文學、即ち律法、歴史、詩歌、預言、勸告、教訓等より成るものにして、其中に包含せる諸書は少なくとも四十人の著者によりて著作せられ、著作の年代は一千年以上の期間に跨り、然るに著者にも時代にも斯の如く種々の別あるにも拘らず、將來に現はるべき神の國と其王メシヤに就ける概念は書中の全部を貫きぬ、此二者に就ける描寫も之に伴ひ、吾人が時代の流を下るに隨ひ、其描寫は漸を逐ふて明瞭の度を増すを見る。此等の聖書に就き注目すべき點はメシヤに就ける此概念が此等各記者の心に均しく存在せし事にて、彼等は皆一致して其概念の實現せん事を深く望み、其希望の目前に成就せざりしたため屢ば失望したりしにも拘らず、遂には必らず實現すべき事を確信せり。此種の概念と之が究竟の實現に就ける確信は、此等の書と均しく種々雜多にして、均しく長き期間に跨り均しく種々の著者によりて著作せられし他の文學中に發見するを得ず。加之、此等預言の書は極端なる懷疑記者と雖も、ダニエル書と詩篇中の數篇を除けば、何れも紀元前四百年以前に著作せしものなる事を許容せり。要するに、此等預言的要素の證明上の價値は左の事實中にあり、即ち此等の預言的要素が舊約中最後の預言の書出

より四百年後までに生れざれし一人の者に實現せし事又は此等の長き世紀間に榮えし有ゆる偉人の熱望が只此一人の者に實現せし事是なり。斯かる事實はこの中、超人的先見と神的應用の存在する事を證明す。

本論に入らざる前に讀者の注目を請はざる可らざることは、本書の如き書中に舊約の預表論若くはメシヤに關する預言を詳論するを得ざる事是なり。之を詳論することせば、此等の聖書中より長き記事を多く引用するの必要あり、又長き註解を加へてメシヤの特性を示し、且つ其の特性が如何にして主の人格に實現せしかを證明せざる可からず、然らば是のみにて本書の全部を埋むる程の紙面を要すべし。されば此短かき一章中には只大體の原則數個を提出し置くのみに止め、一々之を應用する事は讀者に一任せざる可らず、そは讀者は自ら舊約聖書を研究する時斯く爲すことを得ればなり。

余が本章の標語として掲げし句中に、主は律法と預言者を廢る爲に來りしに非ず、我來りしは之を廢る爲に非ず成就せん爲なりと言へり。されば吾人が此語の意味を明瞭に理會する事は極めて肝要なり。



左の見解は普通の聖書研究者中に弘く流行す、即ち預言者の特別なる職務は未來を預言するにあり、又預言とは一の格段なる事件が未來の或る時期に起るべしと告ぐる事を意味し、又預言の成就とは斯かる事件が精確に預言と符合して起ることを意味すとの見解是なり。併し乍ら此は舊約聖書の預言者の職務に就ける甚だ不適當なる見解なり。

預言の書中には預言的要素を包含すると共に、唯預言のみに非ざる記事も多くあり。此は讀者の容易に見落し得ざる點にして、何人にも此等の書を一讀せば、之を證するは甚だ容易なり。預言者の特別なる職務は神の爲に代言者となるにあり。例せば、施洗者ヨハネは預言者なりしも、預言せざりき。使徒時代に於ける教會の預言者も亦然り。彼は使徒の次位に置かれ(弗一四〇)アガボの如く、時として未來を啓示する事を許されたるも、彼の特別なる職務は、聖パウロが記述せしが如く(哥前十四〇)人に語りて其徳を立て、勸をなし、慰を予へ、教會の徳を建て、不信者の良心に訴ふるにあり。一言にて云へば、預言者の職務は未來の預言者の其れよりも寧ろ説教者の職務に酷似せり。吾人は此點に注意する必要あり、何となれば主

が其使命の目的は「律法と預言者を成就するにあり」と云ひし時、其來りし目的は其預言を成就し其預表を實現するのみならず、其道德的教訓をも完全にするにありし事を意味したればなり。

次に「成就する」と云ふ語(希臘語の *telegōnō*)の意味を云へば、「充分に補ふ」又は「充分に實現する」と云ふ意あり。此は原語の意なるに相違なきも、普通の新約聖書讀者は殆ど一定して此語の意味を制限し、唯預言の成就のみを意味するものとす。併し乍ら斯く爲す時は、福音書に用ひらるゝ此語の眞意は失はるゝなり。例せば、山上の説教は律法と預言者を成就するもの、即ち律法と預言者の不完全なる言語中に含める眞正の道德的理想を實現するもの、又は「充分に之を補ふものなり」。又聖マタイは「是れ預言者たちの彼はナザレ人と稱へられんと言ひたることの成就せんが爲なりき」と云へる時、主に附したるナザレ人てふ語はメシヤの賤しき状態に就ける諸預言の實現せる事を意味せしと明かなり。然るに斯かる語の舊約聖書中に發見せられざることば事實なり。又同じ福音記者は「是れ預言者イザヤが彼は我等の患を受け、我等の病を負へりと言ひたる事の成就せんが爲なり」と云へる時

主が其醫せし病を自ら其身に受くるによりて此預言の成就せし事を意味せしに非ず、主が數多の病を醫せし事と人間の苦みに對して篤き同情を表はせし事により、一層高尚なる意味に於て、其預言の實現せし事を意味せしなり。故に概して言へば、律法と預言者はイエス、キリストの身に成就せり、即ち律法と預言者の言中にある祭物と禮式に就ける規則など、凡て其中に記せる事は主の人格と事業の上に全く實現し、又律法と預言者の言中にある不完全なる道德上の訓告中に潜める眞意は主の教訓によりて充分に補はれたり。

されば吾人の問題は自ら一の事實に歸着す、即ち律法と預言者は斯くの如く、イエス、キリストに實現したる乎。此問題に答ふることを得ん爲に、余は先づ古世の祭に就ける數個の事實に就きて、讀者の注意を請はざる可からず。

祭は猶太教特有のものに非ず。主が降世の時に普ねく古世に行はれ、種々の形式に於て宗教的、政治的、社會的、生活の各方面に行はれ、又基督教の起りし時、一般に行はれしのみならず、最先なる歴史の初期より普ねく行はれき。祭の起源を論ずるは本書の目的に非ざるを以て、吾人は茲に祭の一般に行れし事實を認むるの

みにて満足せざる可からず。此事實は祭が一般に人間の性質に適合するものなる事を證明す、換言せば、祭は人間の性質中に深く潜める或る熱望を實現せんことを努力なることを證明す。

古世の祭物は血を流すことの伴へる祭物と伴はざる祭物の二要素より成立せり。後者は種々の供物より成立せり、其中或る供物は禮拜者(偶像教の禮拜者を云ふ)が神より受けたりと想像せる恩恵を感謝せんが爲に供へ、又或る供物は神に嘉納せられ、且つ神の恩恵を得んと思ひて供へたり。併し血を流す祭物は罪の感念より起りたり、多くの場合に於て此感念深くなる時は、人を犠牲に供ふるに非ざれば適當に其罪を贖ふに足らずと想像せし程なりき。犠牲の理想を最も善く言ひ表はせしものは預言者ミカの言なるべし、彼はバラクがパラムに云ひしものとして斯く云へり、曰く「我エホバの前に何をもちゆきて高き神を拜せん、燔祭の物及び當歳の犢をもてその御前にいたるべきか、エホバ數千の牡羊、萬流の油を悦びたまはんか、我愆の爲に我長子を獻げんか、我靈魂の罪のために我身の産を獻げんか(六七)。

此は古世に於ける人心の一般の叫なりき、而して之が満足を得んが爲めに其祭は企てられしなり。固より舊約聖書には人間を犠牲に供ふる事は之を嚴禁したれども、同様の犠牲は神殿に於ける禮拜の特色なりき。

然らば此點に就ける新約記者の認定は如何と云ふに、彼等の認定によれば、イエス、キリストは其人格と事業によりて、此祭に就ける凡ての事が無効となり無益となるほど、充分に之を實現せり、是れ果して事實と符合するや。

一。何處にても基督教が受け容れられし處には祭は廢りたり、是れ極めて顯著なる事實なり、何となれば凡ての基督教國に於ける先祖の宗教中缺く可らざる要素は此儀式より成立したればなり。吾人の皆知れる如く、宗教の儀式は永續するの傾向甚だ強し、然れども血を流す祭物はキリストの教會に於て曾て一回も獻げられし事なし。是に由て左の點は證明せらる、即ち基督教を受け容れし最初の改心者は幼少の時より馴れたる祭に就ける凡ての事がイエス、キリストの人格と事業によりて實現せしことを感せし事是なり、一言にて云へば、此は彼等の需要と熱望を満足せしめたり。

二。基督教が猶太教より生ぜし事と舊約聖書の權威を認めし事は明白なる事實なり。然れども斯教が舊約の祭物と禮式に關する規則全部を廢せし事も同じく明白なり。甲の宗教が乙の宗教より生じ、且つ乙の神權を認めながら、尙ほ乙の方の儀式全部を廢する事は人類の歴史中無類の事實なり。是は一方が他の一方中に包含する事實を皆充分に實現せるものと感せしとの理由によりてのみ説明し得るなり、而して其事實と符合するものはイエス、キリストの人格と事業なり。

三。聖ルカと恐らくはヘブル書記者とを除けば、新約聖書の記者は皆最も嚴重なる猶太教主義に教育せられし猶太人なりき。斯かる人々の心には舊約の祭物と禮式に關する規則は極めて重要な位置を占めたりしに相違なし、彼等は皆此等の規則を神の權威より出でたるものと認めれば、舊約預言中のメシヤ即ちモーセの如き預言者が之を全廢すべしとの眞理を受け容るゝ事の極めて困難なるを感せしに相違なし。然れども、彼等の昔によれば、猶太人なる信者に於ては此等の或儀式を守り續くることを許せしかども、其全廢せしことを事實として許容せしことは明白なり。又或る儀式を守り續くることを許せしも、それは其良心より守る

べき義務として非ず、其養育せられし國の習慣としてなりき。此顯著なる事實より推定すれば、彼等は此等の儀式中に含める理想が主の人格と事業とによりて完全に實現せられ、祭物と禮式は此後無意味となり無益となりしものと思ひたるに相違なし。

然らば此等の事實には如何なる證明上の價值ありやと云ふに、之を簡短に述べれば左の如し、即ち古世の祭は極めて深き人心の渴望を満足せしむる爲に企てられたるも、其効果極めて不完全なりしなり。されば多くの時代を歴て後一人の者現はれ、其人格と事業とによりて充分に人心を満足せしめられたれば、複雑なる此祭式は漸く消失し、今は全く烏有となれり。借問す、其人格と事業とに由て有ゆる人心の熱望、即ち此祭によりて充分に満足せしむること能はざりしものを實現せし者は吾人の如く唯人間のみなりしと云ふを得べきか。

恐らくは讀者の中に斯く云ふ者あらん、曰くキリストの教會に於て祭は廢りたりと云ふも是全くは精確に非ず、反つて多數の信者はミサと稱する式の執行を祭と認むる事實ありと。聖餐式に就ける眞正の教理如何を論ずるは本書の目的に

非ず此點に就いては教會中二大派の人々が抱ける二つの見解を擧ぐるのみにて充分なるべし、其一は聖餐式に於て唯一たびキリストの全き犠牲は赦罪のため父に獻げらるゝと云ふ、又其二は同一の全き犠牲は心靈上の糧と助として信者の心に與へらるゝと云ふ。併し何れの場合に於ても犠牲が繰返さるゝ事を假定せず、而して聖餐式を以て唯一たびキリストの全き犠牲を新たに父に獻ぐるものと認むる方の教會にては此犠牲は血を流さる祭物と稱せらる。さればキリストの人格に集中せる犠牲の理想は何れの教會にも存すれども、血を流すことを意味する祭物は何れの教會にても全く止みたるに相違なし。

四。次に舊約時代に於ける血を流さる種々の供物に就いて云へば、此等は禮拜者が己れの受けたる神の特別なる憐みを感謝せんとの目的にて供へたる特別の禮物なりき。此等はキリストの功勞によりキリストの教會に於ける唯一の祭物として實現せられたり、此祭物は新約の教訓によれば禮拜者の方に於ける一部分の供物として非ず、更に高尚にして完全なる供物として神に嘉納せらるゝなり、即ち人がキリストの愛に報ゆるため當然の聖き活ける祭物として己れの魂と

身とを神に獻げ、己を聖別するものとして嘉納せらるゝなり。基督教に於ては之に劣る供物にて満足せず。

五。舊約時代に於ける尙ほ一つの根本的理想は祭司職に就ける理想なりき。其意如何と云ふに人は神に近づくことを得んが爲めに、神と人との間に立ちて取り成す仲保の必要を心の奥底より感ずる事是なり。古世の祭司職は皆此感情を満足せしめんと試むる手段なりしかども不完全なりき。余が不完全なりしと云ふ所以は他なし、唯人間のみなる祭司は禮拜者と同じく實際不完全なる者なれば斯かる祭司にては如上の感情を満足せしむること能はざればなり。此種類の祭司は固有の権利によらずして、任命によれる祭司なるが故に有効に取り成すことを得ず。されどイエス、キリストの人格、事業、犠牲は完全なれば、之に由て祭司職の理想を完全に實現するなり。されば彼は已に依て人々を神に近かしめ得るキリストの教會は唯一の祭司なり、彼は又祭司職の理想を全く實現せし者として、神立のものとして人立のものとして論なく、他の祭司を皆廢したり。ヘブル書記者の語にて云へば、斯の如き祭司の長は我等に適當せる者なり、彼は聖くして、惡き事なく、汚な

く罪人に遠ざかりて、諸ろの天よりも高くせられ給へり、されど我等の弱きを思ひ遣ふことを得るなり。又かの祭司の長の如く、彼は先づ己れの罪のため、後に民の罪の爲めに日毎に犠牲を獻げ給ふに及ばず、そは己れを獻げて一度に之を成し給ひたればなり。斯くの如く彼は祭司職と犠牲の理想を含める眞理を己れの人格によりて全く實現したれば、凡て他の祭司職と犠牲を盡く無効ならしめき。

六。イエス、キリストは舊約時代に於ける道德的訓告の成就者なること。

「成就」てふ語は主の教訓に應用する時精確に此語の原語(即ち希臘語)の意味に解釋し、舊約聖書の道德的訓告中に含める思想を充分に成就し、又は完全に實現し、其訓告を有ゆる缺點より脱せしむることを意味するものとせざる可からず。此は主の教訓によりて成就せしやと云ふに、主の教訓は神に對し人に對する人間の義務全體を完全に實現するものにて、之よりも一層高尚なるもの又は一層完全なるものを思料するは不可能也。モーヅリ教授の語を假りて云へば、若し舊約の教訓中、結婚と愛と復讐に就ける不完全なる律法に於けるが如く、及ばず盡さずして、不足する所あらば、是れ皆律法の本質に非ず、之に反して凡て完全なるものは律法な

りと假定せらる。「天に在す汝等の父の全きが如く、汝等も全かれ」とは良心に命令する完全なる律法なり、吾人は今より後此外何をも知るまじ。」（舊約の思想）

頁五

本書の第七章中余は主の道德的教訓に就ける證明上の價值を考究し、主が舊約聖書に載せたる道德的訓告の成就者なることを主張せし様式を評價するに足るべき充分の材料を讀者の前に提供せり。されば今之を繰返すに及ばざるべし。茲には唯一例として山上の説教中第一章に於ける主の教訓を引照するのみにて充分ならん。

此説教中、天國の立法者は、義務に就ける種々の規則を提出せずして、先づ其國の民たるに適する品性として、心の状態八個の上に祝福を下し、次に「殺す勿れ」と云ふ舊律法を「充分に補はん」が爲め他人に害を與ふる凡ての行爲にも此律法を擴めたり。又姦淫を禁する舊律法も現實の行爲より内部の思想に擴められき。而して偽誓を禁せし律法は單に實を語るによりて實現せられざる可からず、賠償の律法も己れ他人に爲られんと欲する如く他人に爲すによりて實現せられざる可から

ず、又隣を愛することを命じ、敵を惡むことを許せる律法は敵を愛し、敵の爲めに祈るによりて實現せられざる可からず。同一の原則は此説教の全部を貫ぬき、他の所には左の大なる誠に總ての教訓を包括せり、曰く「汝心を盡し精神を盡し力を盡して主なる汝の神を愛すべし、又己の如く汝の隣を愛すべし」。

七。キリストは舊約中にある預言の成就者なること。

舊約中殆ど總ての預言的聖書に基づく二つの概念あり、即ち將來に現はるべき神の國に就ける理想と其國にて王たるべきメシヤなる大救世主に就ける理想是れなり。此國は預言者たちにより多くは舊神政が過去の缺點を除かれて完全に實現すべき一種の状態として思料せられき、而して其國の幸福には異邦の國民も與かるべく、又神の敵亡ぼされて後其國にて正義と平和は最上の地位を占むべきものと思料せられき。併し或る預言者は一層高尚なる見地より見て、此國は純粹なる心靈的王國なるべしと預想せり、されば此國にて有ゆる儀式的禮拜は止むべく、又服従も單に成文的律法に對する服従に非ずして、心中の状態より生ずる自然的結果としての服従なるべしと思料せられき。例せば、預言者エレミヤの書中に

左の顯著なる預言あり。曰く、

「視よ我イスラエルの家とユダの家とに新しき契約を立る日來らん。此契約は我が彼等の先祖の手をとりてエジプトの地より之を導き出せし日に立てし所の如きに非ず。我彼等を娶りたれども、彼等はその我が契約を破れりとエホバ言ひたまふ。されどかの日の後に我イスラエルの家に立てん所の契約は是なり、即ち我も我律法を彼等の裏におき、其心の上に録さん。我は彼等の神となり、彼等は我民となるべしとエホバ言ひたまふ。人各其隣と其兄弟に教へて、汝エホバを知れと復た云はじ。其小より大に至るまで悉く我を知る可ければなりとエホバ言ひたまふ。我彼等の不義を赦し、其罪をまた思はざるべし」(耶卅一〇卅)。

預言的聖書中以上引用せし語ほどに此國の純粹なる靈的特性を明示したるものは稀なり。然れども此等の書には過去に存在せし如何なる國よりも比較す可からざる程完全なる神の國來るべきことを預想し、有ゆる現在の失望に頓着せずして此預想に執着せり。此等の預言は何れもイエスキリストの降世より幾百年以前に出でしことに注目せよ。然らば此等預言者の言に基ける理想は實現せられし

や。

余は答へて云はん、曰く此等の言出てより幾百年の後にイエスキリストが舊神政の理想と最も高尚なる預言者の預想とを實現する目的にて一つの國を建てしとは明白なる事實なりと。此國の性質と其の打勝ちし障礙と其の成就せし事業に就いては、本書第一編中所々に説述せり。余が尙ほ言はざる可からざることはなし、即ち此等の預言的描寫は實際尙ほ充分に實現せられざるも、其基礎なる根本の主義は實現せられ且つ現時活動して人類の全團塊を醗酵せしめつゝあることは是なり。

加之、此等の聖書には此國の王メシヤに就ける二つの格段なる描寫を吾人に顯はせり、即ち一方には彼は其敵を亡ぼして後、正義と平和の世を興すべき凱旋せる勝者として描出され、他の方には他人のため死に至るまで苦を受け、之に由て光榮ある勝利を得、且つ固有的に適當なるにより神の國の王たるべき受苦者として描出さるゝを見る。數多き他の聖書は別として、イザヤ書はメシヤに就けるこの二つの描寫を以て貫けり。而して後者に就きエホバの僕なる名稱を以て種々に

描出されしものは、最初何を指て云ひしにもせよ、イエス、キリストの人格と事業、其の受苦と死と復活及び神の國に於て現在王たることによりて疑ひなく完全に實現せられたり。而して受苦のキリストに就ける預言的描寫がイエス、キリストの人格によりて實現せられし事實は、凱旋のキリストに就ける描寫中、凡て靈的にて永遠なるものも時に至りて成就する保證として充分に之を受け容るゝを得べし。

紙面に制限あるが故に、余は特別なる預言の考究に従事するを得ず。然れども余は既に第二章に於て預言の最大なるものを考究せり。此預言は吾人の時代に於て完全に實現せられしものなれば、此預言の成就によりて信せざる人は、如何なる他の預言が成就しても、之によりて信するが如きこと無かるべし。

今余をして預言に關する證據を一括し、其結合せる効力を讀者に示す所あらしめよ。舊約聖書にはイエス、キリストの降世より幾多の世紀以前より、未來の或る時期に於て神の國を建設するは神の聖旨なる事と其國の王なるメシヤの降臨を告示せり。而して斯かる國はイエス、キリストによりて建設せられれば、此國にて王たり。又モーセの如き預言者現はるべき事を告示せり、而して大勢の預言者現

はれたれども、モーセに似たる者は唯イエス、キリストあるのみ。又高潔にして超人的性質を有し、他人の爲に苦みを受くるが如き人格を描出せり、而して斯かる理想の人物はイエス、キリストによりてのみ實現せらる。又王なる祭司たるべきメシヤを告示せり、而してイエス、キリストは此職を執り、有ゆる他の祭司職と犠牲とを廢止せり。又舊約は種々の儀式、符號、影なる代表、禮式より成立せり、而してイエス、キリストと其の教會は此等の儀式などの下に隠れたる實體を現實に顯はし、恰かも白晝に持てる蠟燭の如く、此等の儀式などを未來永久に無用ならしめき。又舊約中の大なる王と預言者たちは來らんとする一層善き事を熱心に待望みたり、而して神にして人なるイエスの人格、行爲、教訓は此等の熱望を満足せしめたり。又舊約の教訓は永遠の眞理に基づきたれども、其時代の低き道德的狀態に適應せしむる必要ありし爲、其中には明かに缺點の痕跡あり、而してイエス、キリストは其の教訓と品性によりて律法と預言者中の朦朧たる理想に體を與へたり。要するに舊約の預表論、預言、道德的教訓、及び其中の偉大なる人物の熱望は盡く共通の中心なる偉大不偏の人、即ち我等の主イエス、キリストに集合す、而して此等を充分に



基督教證據論 第二編 基督教の奇蹟的證明及び其性質と證據 第十一章  
満足せしむるものは唯彼あるのみ。

二三四

基督教證據論 (終)

明治四十五年五月十五日印刷  
明治四十五年五月十八日發行



不許  
複製

譯者 木庭孫彦  
東京市神田區小川町一番地  
發行者 イー、ライアソン  
東京市京橋區木挽町二丁目十三番地  
印刷者 佐藤保太郎  
東京市京橋區木挽町二丁目十三番地  
印刷所 中屋商店活版部  
東京市神田區小川町一番地

發行所

大賣捌所

普光社  
大阪市西區京町堀三丁目  
榮光社  
神戸市中山手通三丁目外五番  
日本聖公會出版社

# ▽神學叢書△

パチエラー、オブアーツ 岩井順一譯  
エル、チャー、エー、チ

## 舊約聖書之眞價

菊判總クローヌ二百頁  
定價金 七拾錢  
郵税金 八錢

凡そ何れの時代にありても、舊約聖書研究に貢献する所、舊約聖書より學ぶ所なかる可らず。而して現代がその研究に貢献すべき所は、その起原發達の史的的研究にして、そのこれより學ぶ可き所は神がその民の爲又世界人類の爲その目的を遂行し給ふは確乎として思議す可らざるものありとの所なり。然るに我國にありては、新約聖書の重せられ、舊約聖書の輕せらるゝ傾きあるは慨して又嘆す可きなり。これ本書の譯出せられたる所以にして、本書は主として舊約聖書の起原を人的方面史的方面神學的方面より考究し、最後にその價値の問題に及べり。我輩亦著者と共に本書が「此の如きとせしめて有か無かを知らんとて聖書を究めん」動機ならんことを切望す。

文學士 穴倉保譯

## 神と人の人格論

菊版總クローヌ二百五十頁  
定價 一並製金 八十五錢  
郵税金 八錢

人類の人格が靈物であるといふのは人類自身の主張である。物理學はこれを輕むするも、批判哲學は明かに之を論斷したので、かゝる最高範疇の下に吾輩は神を曉り得るのである。進歩的天啓を期待せしむるのである。此天啓の蹤を辿りて、神子受肉の最高潮に説き及ぼしたるものは此書である。

文學士 穴倉保譯

## 神の内住

菊版總クローヌ二百四十頁  
定價 一並製金 七十五錢  
郵税金 八錢

こはイッソングウオース博士が前著人格論に於て人格の方面より研究したる問題を物質の方面より論究し、史的事實以外より歩を進め自然宗教發展の徑路を辿り、自然宗教發展の頂に神子受肉説あり、神子受肉説の以前に自然宗教ある事を確言し、近代思潮に親み自然宗教的傾向を帯ぶる人に向つて、自然宗教の完成は基督教の信條にある事を示さんとせしものなり。

文學士 穴倉保譯

## 理性と天啓

菊版總クローヌ二百八十頁  
定價 一並製金 八十五錢  
郵税金 八錢

基督教は宗教を骨子として、哲學を補佐とするものなり。さればこれを研究せんとせば其の宗教的方面を見併せてその人生の實踐に對する關係と其思想とを考へざるべからず。本書は英國神學界の泰斗イリソングウオース博士が五大著書中の第三にして、基督教證據論の豫定たる哲學的及び道徳的考察を陳べ、進んで此豫定の發達に及ぼす智情意の影響に論及せるもの、譯者は屢同博士の著を譯して知られたる學士、此書に於て其筆愈精練の域に入り。吾社は此一書を現代の讀書界に提供する事を名譽とするものなり。

神學士 小林彦五郎譯

## 基督教徒の品性

四六版總クローヌ百五十頁  
定價金 三十錢  
郵税金 四錢

品性を説くは近代の一流行なり、儒教的品性を説くものあり、武士道的品性を説くものあり。されど此ふ説く事を休めよ。吾曹が千九百年來傳へ來りし一種の品性あり。然らば其の品性とは如何なる品性ぞ、これ此書の現はれたる所以なり。著者は英國一流の思想家なり、譯者は敬虔なる教育家なり。未だ其如何なるものなるやを知らざる人は就て之を研めよ、既に知れる人はとつて以て反省の料とせよ。

長老稻垣陽一郎譯

## 三位一体の教義

菊版總クローヌ二百四十頁  
定價 一並製金 八十五錢  
郵税金 八錢

三位一体の教義は教理史上曾て屢論争點たりしが如く今後亦然らんとするの徴候あり。著者此に見る所ありて新に辨證的方面より此教義の根據其智的關係其實功力を詳論せしものは即ち此の書にしてわれらが「新編」の二字を冠せしも亦此故也。吾に之れ神學校必供の参考書たるのみならず苟も神學思想に興味あるものは是非とも一讀を要すべきものなり。我社は茲に牛津第一流の神學者の名著を経験ある譯筆によりて日本の神學界に提供するの光榮を有す。

稻垣陽一郎譯

# 新神學と舊宗教

菊版總クローヌ百五十頁  
定價金 六十五錢  
郵税金 八錢

カムベル氏の神學なる運動は實に久しく伏在せる思潮の或傾向を捕へて論壇に提供せるものなり。之に對する原來の基督教は如何なる位置にあるべきや。此時に當りニア監督は其教區の大聖堂に於て此問題に對し、其講演の出版せらるゝや、チャーチ、タイムスは「われらの正さに聽かんとする所を最も聽かんと欲する人より聽けり」といへり。極東にありても亦等しく多くの人の聽かんとする所にして、而も譯筆亦之に稱ふ實に我社はチャーチタイムス記者の言を繰返すと共に、此點を發言せんと欲す。

長老今井壽道著

# 舊約聖書神學

菊版總クローヌ四百頁  
定價金 一圓二十錢  
並製金 一圓  
郵税金 八錢

舊約を知らざれば、新約を知る能はず、舊約を知らんと欲すれば、浩瀚なる舊約は往々人をして中心思想の那邊にあるかに迷はしむ。舊約聖書神學とは即ち是等中心思想を説明したるもの也。現時の教界は實に斯の如き書を翹望すること久うして、然も斯く如き書なし。先賢の責乎、問題の難乎、本社愛に見る所あり多忙なる今井先生を煩はして、本邦基督教界の欠陥を補はんとす蓋し先生を除いて別に其の人あらざれば也。先生の聖書に關する智識と行文の妙は世既に定評あり。本書の如きは誰に信徒、牧役者の指針たるのみならず、一般教育宗教にたづさはる者にとりても、セミチツク宗教の研究上必要缺く可からざるものなりと信す。

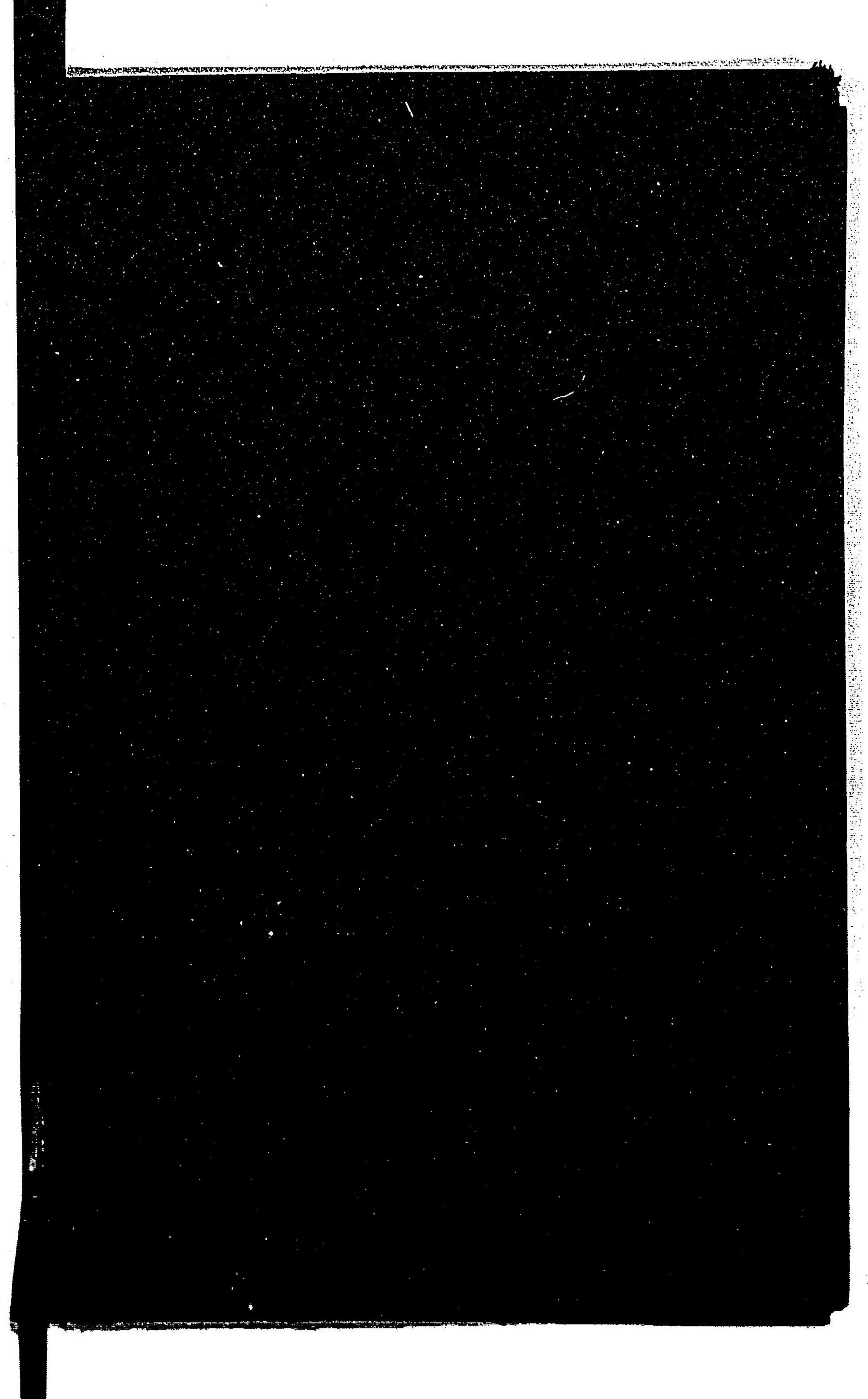
神學博士アル、エル、オットレー原著  
ハチエラ、オブ、アーツ岩井順一譯

# 希伯來民族史

定價 上製 金壹圓五十錢  
並製 金壹圓貳拾錢  
菊版クローヌ四百六十餘頁

近時我國基督教界に舊約聖書及びその宗教の研究漸く盛んならんとして、これに缺く可からざるの舊約歴史なし、否現代の智識と調和せるの舊約歴史なし。而も此問題たる決して教界のみ問題にあらず、苟も人文の研鑽に志すの士一度西歐文明に及ばせる猶太の宗教と道德との力に思ひ及ばば、到底等閑に附すべきものにあらず、而も教界學界の濟々たる多士中一人の筆をこゝに染むるものなきは豈一大恨事に附あらずや、譯者は此一大缺陷を一擧にして補はんことを多年の研究と燃ゆるが如き熱心とを傾倒して此書を成せり、他の屑々たる小著と同一視する事なからんことを大方に望む。

330  
7





020453-000-0

330-7

基督教証拠論

シ・エ・ロー / 著

M45

ABI-0263

